

能登半島地震に伴う2月の 北陸地域における宿泊稼働指数

2024年3月7日

富山国際大学 大谷友男研究室

公益財団法人九州経済調査協会 事業開発部

能登半島最先端

ここは能登半島の最北端で、ちよと外海と内海との接点にあたる場所です。「海から昇る朝日」と「海に沈む夕日」が同じ場所から眺めることができることで有名です。また、晴れた日には、まなこ岬の魚が観察できます。この高台に立つ灯台は、昭和11年にイギリス技師が設計したものです。秋には、この岬のシンボルマークとして、この地の観光に、ぜひご利用ください。

今回の発表について

- 「能登半島地震以降の北陸地域における宿泊稼働指数」を2月7日に発表。
- 能登半島地震から約1か月間の北陸の宿泊施設の稼働状況を宿泊予約サイトの情報を用いたビッグデータ分析により明らかにしたものの。

<https://www.tuins.ac.jp/2024/02/14174/>

- 風評被害等による観光客減少の影響が見られる一方、金沢や高岡といった能登半島に近い都市では、復旧関係者等の宿泊需要が旺盛で、宿泊稼働指数は高水準であることがわかった。
- 今回の発表では、2月に入り、徐々に復旧が進んだり、3月16日から北陸応援割がスタートすることが決まったりする中で、宿泊客の動きにどのような動きがあったかを明らかにする。

宿泊稼働指数について

- 全国のホテル・旅館における日次の空室水準を宿泊予約サイトのビッグデータをもとに指数化したもので、**前日までの実績**が取れることが特徴。
- 観光庁「宿泊旅行統計調査（速報）」では、稼働率が公表されているが、県別データは各月末に前々月の結果が発表されており、**2か月のタイムラグ**がある。
- 原数値は0から100の間の数値をとり、稼働状況が良い場合は100に、稼働状況が悪い場合は0に近づく（算出方法等は次ページに記載）。
- 観光庁が公表している客室稼働率の結果とほぼ連動しており、速報性の高い数値として活用可能。
- 直近のデータを追うことができることから、政府の「月例経済報告等に関する関係閣僚会議」の資料にも活用されるなど（2021年2月ほか）、最新の景気動向を分析するデータとして活用されている。

宿泊稼働指数の算出方法

■日次（原数値）

$100 - \{ (\text{当日の空室数} - \text{当日を含む過去730日の最小空室数}) \div (\text{当日を含む過去730日の最大空室数} - \text{当日を含む過去730日の最小空室数}) \times 100 \}$

※ 最小空室数が0、最大空室数が150、当日空室数が40の場合、数値を代入すると以下のようになる。

$$\begin{aligned} & 100 - \{ (40 - 0) \div (150 - 0) \times 100 \} \\ &= 100 - (40 \div 150 \times 100) \\ &= 100 - 26.7 \\ &= 73.3 \end{aligned}$$

※ 当該地域において、宿泊施設が過去365日以上連続して立地・稼働していると判定される場合に限り算出

北陸地域全体の傾向

富山県・石川県の高稼働は続く

- 2024年2月の宿泊稼働指数は、1月に続き富山県、石川県で高水準。

- 平日の指数は、前月より若干低下。

→ 復旧関係者の利用が若干落ち着いたためか

- 土休日の指数が低い傾向は1月に比べて緩和。

→ 風評被害の払拭、独自の支援策の効果か

※ 能登半島は施設が休業中のため数値なし

北陸地域の宿泊稼働指数（平日）

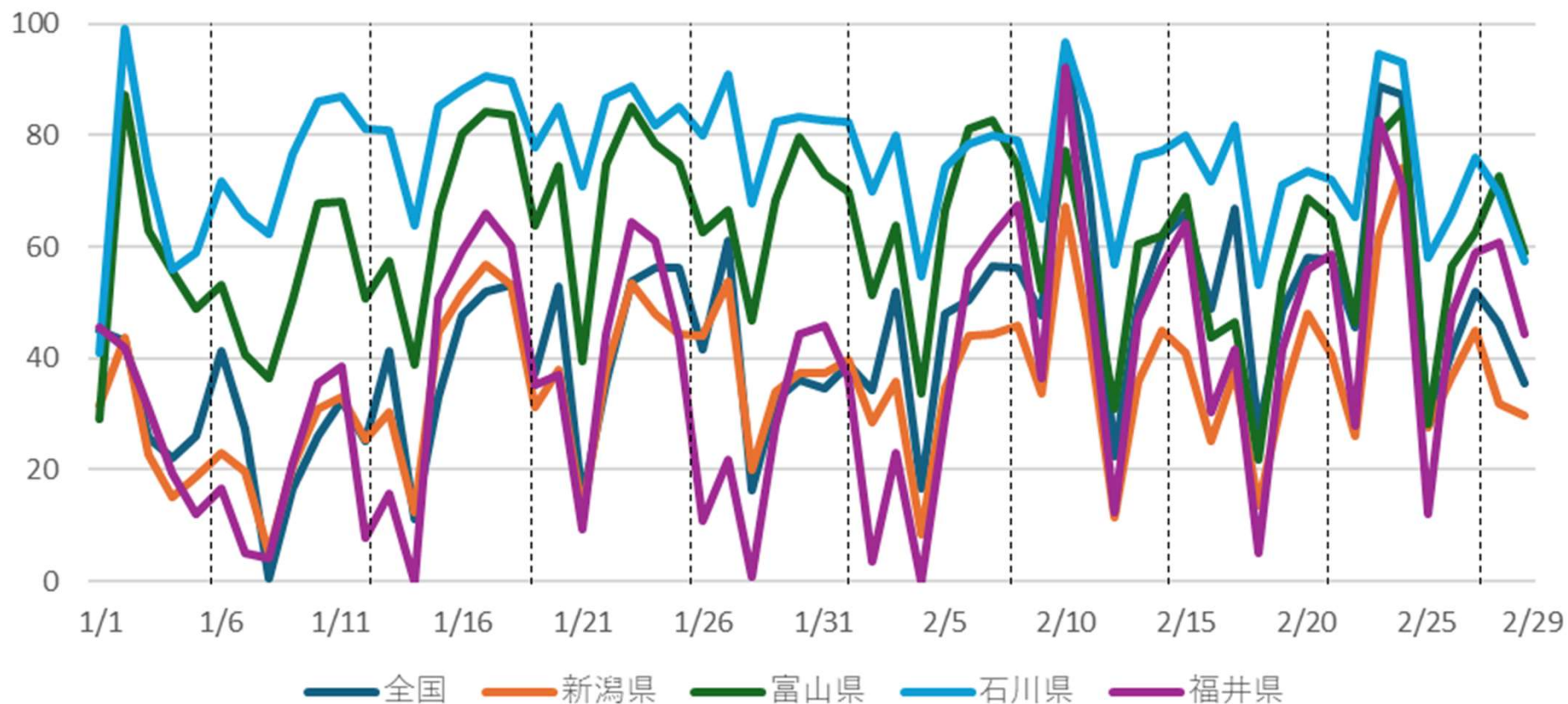
	2019年2月	2024年1月	2024年2月	コロナ前 同月差	前月差
新潟県	40.5	37.8	37.3	▲ 3.3	▲ 0.5
富山県	33.5	69.3	63.1	29.5	▲ 6.3
石川県	39.3	81.5	72.9	33.6	▲ 8.6
福井県	47.7	39.4	46.6	▲ 1.1	7.2
全国	53.2	37.8	49.6	▲ 3.6	11.8

北陸地域の宿泊稼働指数（土休日）

	2019年2月	2024年1月	2024年2月	コロナ前 同月差	前月差
新潟県	36.7	26.0	38.2	1.6	12.2
富山県	36.8	52.8	52.4	15.6	▲ 0.4
石川県	49.3	72.8	75.2	25.9	2.5
福井県	47.2	19.1	39.4	▲ 7.8	20.4
全国	51.4	31.7	55.4	4.0	23.8

1月と比べて富山・石川は低下、新潟・福井は上昇

能登半島地震後（2024年1月～）の北陸地域の宿泊稼働指数



注) グラフ中の点線は土曜日 (以下同様)

復旧関係者等の需要は高止まり、観光客も復調

- 富山県・石川県の宿泊稼働指数は1月に続いて高水準で推移しており、**依然として復旧関係者等の需要は高止まり**しているといえる。また、二次避難者の受け入れにより宿泊稼働指数を押し上げている側面もある。
- ただし、平日の指数は、若干低下していることから、復旧関係者等の需要はわずかながら落ち着いたと考えられる。
- 一方、土休日の指数は、各県とも回復傾向が認められ、**観光需要が回復傾向**にあるといえる。航空各社やJR等の応援キャンペーンや県独自の支援策も功を奏したと考えられる。

県別・主要都市の傾向

新潟県…1月に比べて稼働指数は上昇

- 平日の宿泊稼働指数は前月と比べて大きな変化なし。
- 土休日は上昇しているが、2度の3連休による効果も考えられる。
- 妙高市の高稼働は、スキーシーズンによるものと考えられる。佐渡市は休業施設があった影響もあると考えられる。

新潟県の宿泊稼働指数（平日）

	2019年2月	2024年1月	2024年2月	コロナ前 同月差	前月差
新潟県	40.5	37.8	37.3	▲ 3.3	▲ 0.5
新潟市	43.0	36.6	34.2	▲ 8.9	▲ 2.4
妙高市	52.9	65.7	73.1	20.2	7.4
上越市	31.3	32.1	34.1	2.8	1.9
佐渡市	56.4	65.2	80.1	23.7	14.9

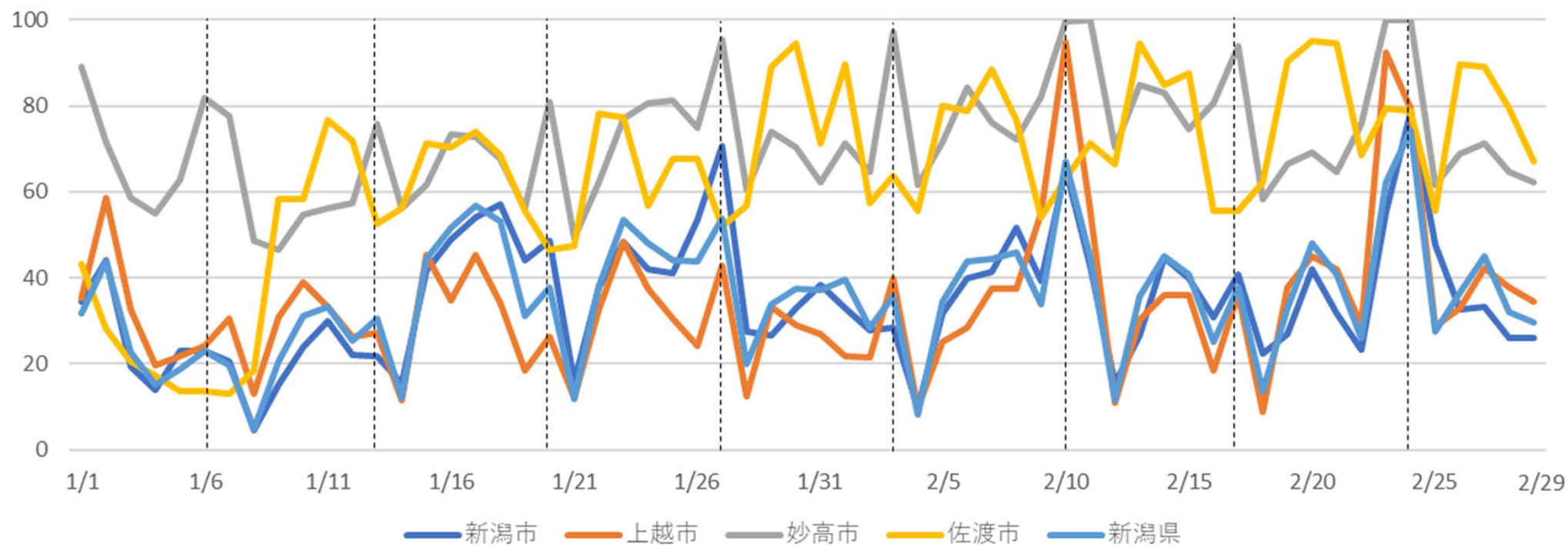
新潟県の宿泊稼働指数（土休日）

	2019年2月	2024年1月	2024年2月	コロナ前 同月差	前月差
新潟県	36.7	26.0	38.2	1.6	12.2
新潟市	39.3	28.8	40.6	1.4	11.8
妙高市	63.1	70.5	77.5	14.4	7.0
上越市	28.5	27.2	45.7	17.1	18.5
佐渡市	33.3	37.4	65.1	31.9	27.7

二度の連休では高い宿泊稼働指数

- 2月は二度の連休（2/10～12、23～25）があり、そこでは高稼働が認められる。

能登半島地震後（2024年1月～）の新潟県内各市の宿泊稼働指数



富山県…高岡市は依然高水準

- 高岡市は依然として高水準。
 - 平日の宿泊稼働指数は、前月と比較して低下傾向にあり、復旧需要がやや落ち着いたのではないかと考えられる。
 - 宇奈月温泉のある黒部市では、平日・土休日ともに前月より上昇。
- 二次避難者の受け入れによる影響もあるのではないかと

富山県の宿泊稼働指数（平日）

	2019年2月	2024年1月	2024年2月	コロナ前 同月差	前月差
富山県	33.5	69.3	63.1	29.5	▲ 6.3
富山市	34.8	71.7	64.8	30.0	▲ 6.9
高岡市	40.4	95.4	90.0	49.6	▲ 5.4
魚津市	42.7	46.4	39.4	▲ 3.3	▲ 7.0
黒部市	78.3	27.7	45.8	▲ 32.6	18.1

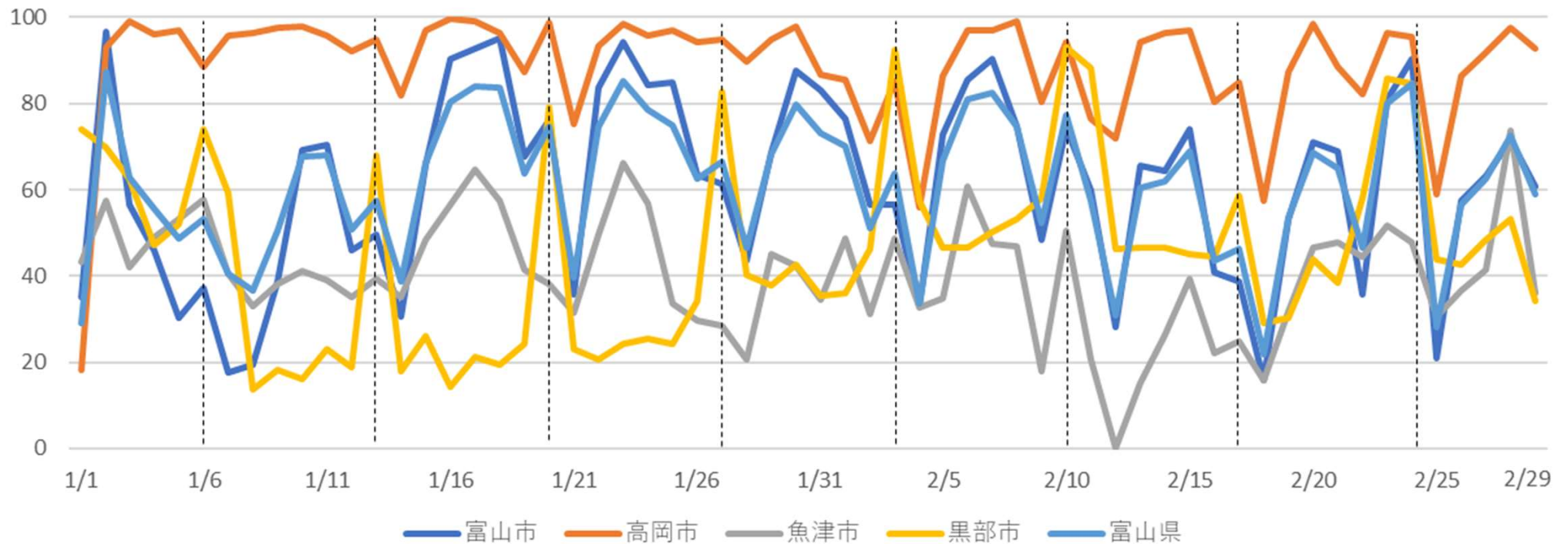
富山県の宿泊稼働指数（土休日）

	2019年2月	2024年1月	2024年2月	コロナ前 同月差	前月差
富山県	36.8	52.8	52.4	15.6	▲ 0.4
富山市	41.7	46.6	49.9	8.2	3.3
高岡市	39.5	85.6	77.7	38.2	▲ 7.9
魚津市	25.5	38.9	32.3	6.9	▲ 6.6
黒部市	84.1	55.4	67.9	▲ 16.2	12.5

2月下旬から反転の兆候

- 富山県では2月20日から県独自の支援策を展開。指数が緩やかに低下していく中で、2月下旬以降は反転の動きもみられる。

能登半島地震後（2024年1月～）の富山県内各市の宿泊稼働指数



石川県…金沢市の平日は低下傾向

- 石川県内は2月になっても、高い宿泊稼働指数を示す。二次避難者の受け入れが続いていることも影響していると考えられる。
- 金沢市に関しては、平日の宿泊稼働指数が低下傾向にあり、復旧関係者の需要がやや落ち着いたのではないかと考えられる。

石川県の宿泊稼働指数（平日）

	2019年2月	2024年1月	2024年2月	コロナ前 同月差	前月差
石川県	39.3	81.5	72.9	33.6	▲ 8.6
金沢市	38.1	85.8	69.4	31.3	▲ 16.4
小松市	47.0	71.9	75.0	28.0	3.1
加賀市	28.8	55.2	62.5	33.7	7.3
白山市	71.4	92.3	96.2	24.7	3.9

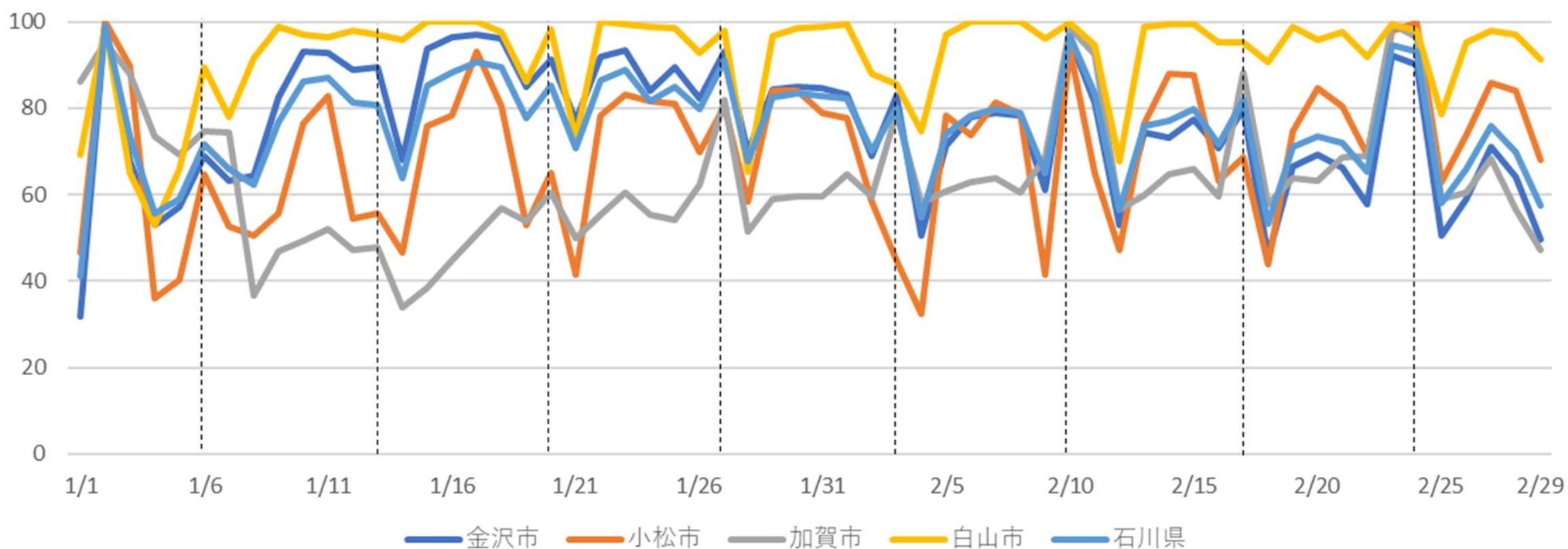
石川県の宿泊稼働指数（土休日）

	2019年2月	2024年1月	2024年2月	コロナ前 同月差	前月差
石川県	49.3	72.8	75.2	25.9	2.5
金沢市	53.1	73.7	72.2	19.1	▲ 1.5
小松市	33.0	59.3	65.6	32.6	6.3
加賀市	56.1	65.0	78.6	22.5	13.6
白山市	36.2	84.9	88.4	52.2	3.5

各市とも平日・土休日ともに高稼働が続く

- 石川県内は各市とも高稼働が続く傾向。加賀市で2月の平日の指数が上昇しているのは、二次避難者の受け入れが進んだためと考えられる。

能登半島地震後（2024年1月～）の石川県内各市の宿泊稼働指数



福井県…平日・土休日ともに回復傾向

- 福井県は平日・土休日ともに概ね回復傾向にあり、風評被害が緩和されてきたのではないかと考える。
- あわら市や坂井市の平日の宿泊稼働指数が高いのは、二次避難者の受け入れによるものではないかと考える。

※ 福井県では8市町16施設で245名受入（3月5日現在）

福井県の宿泊稼働指数（平日）

	2019年2月	2024年1月	2024年2月	コロナ前 同月差	前月差
福井県	47.7	39.4	46.6	▲ 1.1	7.2
福井市	49.4	46.4	50.8	1.5	4.5
敦賀市	70.7	47.7	40.9	▲ 29.7	▲ 6.8
あわら市	44.3	62.8	70.8	26.5	8.0
坂井市	43.2	64.3	76.2	33.0	11.9

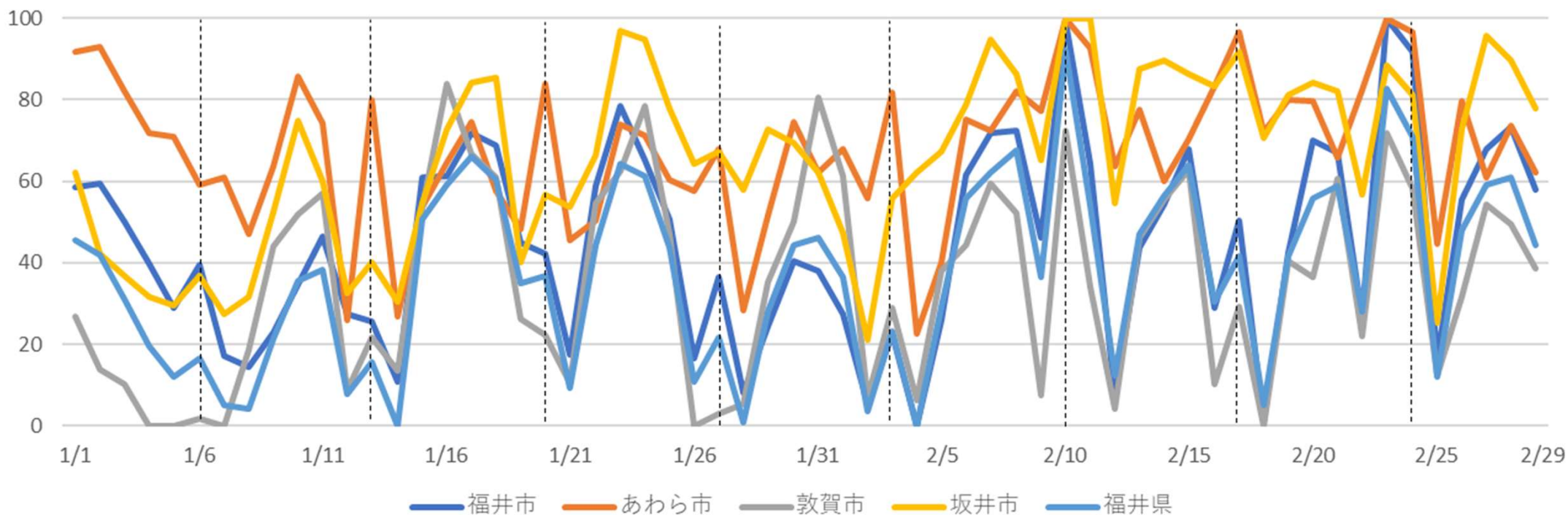
福井県の宿泊稼働指数（土休日）

	2019年2月	2024年1月	2024年2月	コロナ前 同月差	前月差
福井県	47.2	19.1	39.4	▲ 7.8	20.4
福井市	40.7	31.6	50.3	9.6	18.7
敦賀市	42.8	13.4	35.3	▲ 7.5	21.8
あわら市	72.3	63.8	71.3	▲ 0.9	7.5
坂井市	49.2	45.3	66.2	16.9	20.9

2月以降のあわら市・坂井市は平日も高水準

- 2月の2度の連休では各市とも高水準。あわら市・坂井市は2月以降、平日も高水準なのは二次避難者の受け入れが影響していると考えられる。

能登半島地震後（2024年1月～）の福井県内各市の宿泊稼働指数



結果のまとめ

- 能登（氷見市を含む）は、地震の影響で宿泊施設が営業を休止していることからデータを取ることはできず。
- 1月に続いて**石川県や富山県では宿泊稼働指数は高水準**で推移。金沢市や高岡市などが依然として能登の復旧・復興の拠点となっている。
- ただし、平日の宿泊稼働指数は低下傾向で、二次避難者が能登に戻れない現状を考えると、**復旧関係者等の需要は若干落ち着いた**と考えられる。
- 1月は土休日を中心に低水準だった加賀市や黒部市等（いずれも温泉地）でも、2月の土休日は回復傾向にあり、**観光客が戻りつつある**。実際、観光客の回復傾向は他の分析でも明らかになっている。

参考：「令和6年能登半島地震による観光人流の変化～「デジタル観光統計（国内版）」による分析を通じて」
（公益財団法人九州経済調査協会、2024年3月7日） <https://www.kerc.or.jp/sp/prs/20240307-4.pdf>

北陸応援割の効果で能登半島の復旧・復興に

- 能登...被害も大きく、復旧にはまだ時間がかかる

宿泊施設が早期に復旧できたとしても、
金沢や高岡などに流れている復旧関係者が流入



復旧優先であり、当面は観光という状況にない

- 能登以外の北陸...被害は軽微、風評被害の懸念

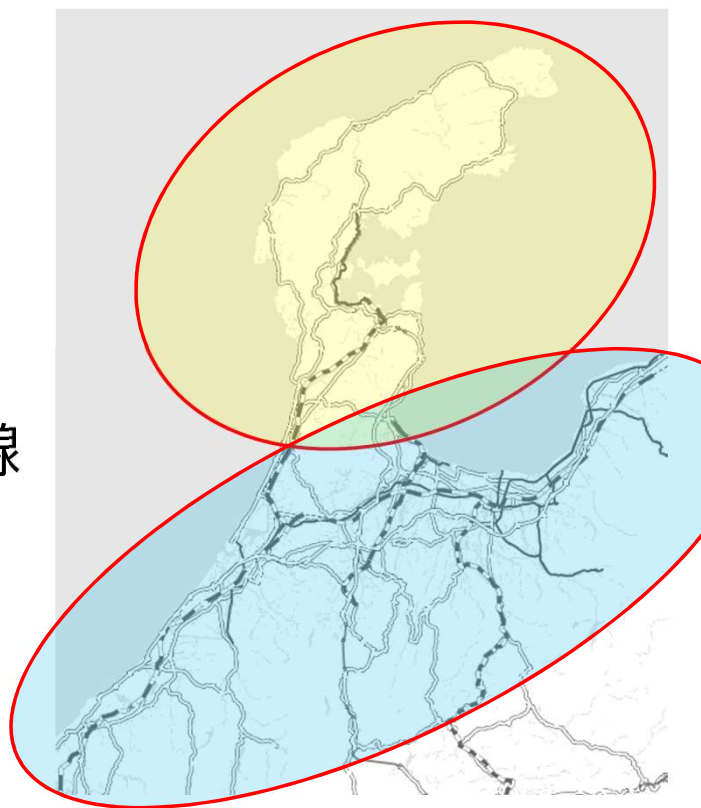
風評被害は払拭に向かう。加えて3月16日の北陸新幹線
敦賀開業＋北陸応援割で大きな追い風



能登の復旧・復興につながるような観光振興に

例) 宿泊施設や飲食店など観光客が訪れる場所での能登製品の積極利用
公的機関による能登産品を積極利用している施設や店舗の情報提供
旅行者側も能登産品を利用している施設や店舗を積極的に利用

2月の発表と
ほぼ同じです



お問い合わせ

富山国際大学 現代社会学部 観光専攻
准教授 大谷友男

TEL : 076-483-8000 (代)

E-mail : totani@tuins.ac.jp